福岡県　失語症者向け意思疎通支援者養成講座

2019.2.7

NEWS LETTER　第1号

編集発行：一般社団法人　福岡県言語聴覚士会　失語症サポート委員会
事務局：麻生リハビリテーション大学校　灘吉享子　TEL　080-1776-5108

受講生の皆さん、お元気ですか？

9月15、16、17日の集中講義からそろそろ5か月になります。
それぞれの実習場所で、失語症の方のコミュニケーション支援実習、外出同行支援実習を行ってこられたことと思います。

このニューズレターは、より良い支援を行えるようにとの願いを込めて発行を始めました。
養成講座・実習の様子、関連情報、会話のコツなどについてご紹介していきます。

－－

会話のワンポイントアドバイス　「ゆっくりと」

「早いねえ」・・・これは、10年以上前、失語症会話パートナーの養成活動の中で
ベテランの失語症の方に頂いた大切な助言です。

会話のスピードを、「みなさんまだまだ早いねえ、ついていけないよ」
とはっきり仰いました。
以来しばしば思い出し、自分に、そして支援の場でも声をかけています。

では、どうしたら「ゆっくりと」会話できるようになるのでしょう？
失語症の方と話す時は、「必ず、普段の自分の話し方とは変える」必要があります。
自分の話し方を意識してみましょう。早口で長々と話していませんか？
うまくやりとりしている、お手本になる人がいたら真似をしてみましょう。
有名人でも構いません
普段、早口でぱっぱっと話す方　（たとえば、黒柳徹子さん、永六輔さん風）は、
ぐっと抑えて、ゆっくりと　（市原悦子さん、樹木希林さん、吉永小百合さんのように？）

失語症の方が置いてきぼりにならないよう、ゆっくりした話し方、やりとりをお願いします

皆さんも、失語症の方からの助言を蓄積して下さい。難しかった経験は分け合って、悩みや良いやり方を共有しましょう。　ぜひスタッフにも声をかけて下さい。

今年度はあと数回の実習です。体調に気をつけて年度末まで宜しくお願いします。

県士会委員一同

P1：ご挨拶、構成
P2：福岡県言語聴覚士会ニューズレター
　　平成30年度養成講座報告
P3：ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援実習、同行支援実習報告
　　支援グッズのご紹介
P4～6：各実習の様子　フィードバック、書籍紹介
P7：支援者養成者養成実習の説明チラシ
P8「失語症全国大会ｲﾝおおいた」のご案内

内容/写真の無断転載はご遠慮ください

平成30年度 失語症者向け意思疎通支援者養成講座 開催報告

会長 佐藤 文保

9月15日(土)・16日(日)・17日(月)に平成30年度失語症者向け意思疎通支援者養成講座を開催しました。この講座は、福岡県が行う失語症者向け意思疎通支援者養成事業の一環として行われたもので、今年度から県からの委託事業として、福岡県言語聴覚士会が開催することになりました。

この講座では、失語症のある人とのコミュニケーションにおいて、必要な会話技術を身につけるだけでなく、失語症のある人の思いを理解し、失語症の人と1対1の会話が行え、日常生活上の外出場面でも支援できる意思疎通支援者を養成することを目的としています。

今回が初めての開催でしたが、講座には失語症者の支援に理解と熱意を持たれた18名の方からの応募があり、3日間で14時間の講義を受講していただきました(講義内容は参照)。
今後は失語症の友の会やサロンなど、さまざまな団体の中でのコミュニケーション実習と外出同行支援実習(28時間)を経て、失語症者向け意思疎通支援者の第1期生が誕生する予定です。

この失語症者向け意思疎通支援者養成事業については、失語症のある人がさまざまな地域で必要な時にこの支援を受けられるよう、環境を整えていく必要があります。福岡県言語聴覚士会としても、この養成講座を契機に、失語症のある人の意思疎通を支援できる多くの支援者を養成し、失語症のある人がそれぞれの地域で社会参加できるよう、事業の推進にも努めていきたいと思っています。

最後に、この失語症者向け意思疎通支援者養成講座は失語症サポート委員会の委員のみなさんのご協力のもと開催することができました。ご協力いただきました委員の皆さんに心より感謝いたします。

■講義内容:失語症とは何か

- ・失語症のある人の日常生活とニーズ
- ・意思疎通支援者の役割
- ・支援者の心構えと倫理
- ・派遣事業と会話支援者の業務
- ・コミュニケーション支援
- ・外出同行支援
- ・身体介助の方法
- ・身体介助実習

■実習内容:コミュニケーション支援実習

- ・外出同行支援実習

■失語症意思疎通支援者の基本的支援内容

外出支援	外出に同行し、他者とのコミュニケーションを支援する
交通機関利用援助	駅・バス停などを利用する場合、路線図や表示板などを読んで理解することを支援する
会・会議での内容理解援助	会議の内容などを分かりやすく伝達する。意見のある時は伝えやすいように支援する
同病者とのコミュニケーションの援助	失語症友の会などに同行し、コミュニケーションを支援する
公共施設の利用援助	銀行・役所・郵便局などに同行して手続きなどを支援する
買い物・娯楽施設などの利用援助	店頭でのやりとり、商品説明の理解、施設の利用用法や手続きの理解などを支援す

一般社団法人　福岡県言語聴覚士会　ニューズレター　第76号　H30年12月発行

失語症者向け意思疎通支援者養成講座
～「コミュニケーション支援実習」「外出同行支援実習」経過報告～

失語症サポート委員会　委員長　髙橋　雅子

受講生（18名）は9月に3日間の集中講義を終え、10月から失語症の方に接する「コミュニケーション支援実習」18時間と「外出同行支援実習」8時間に移りました。失語症友の会など6団体（北九州失語症友の会「あすの会」、小倉リハビリテーション病院「筍の会」、北九州市立障害福祉センター、福岡リハビリテーション病院「虹の会」、「あんど福岡失語症サロン」、失語症会話パートナー養成「あんど」）のご協力で実習に臨んでいます。

実習は「打ち合わせ、支援の実践、振り返り」という形式で行われます。

コミュニケーション支援実習

外出同行支援実習

「コミュニケーション支援実習」では、例えば友の会に参加している失語症の方のそばで、会話や他の方とのやりとりをお手伝いします。「外出同行支援実習」では、社会参加・自己決定・他者との交流を安全に行って頂けるよう、バスハイク車中のやりとり、乗降、トイレ休憩、観光、食事、買い物などを支援します。受講生には失語症専門のボランティア（会話パートナー）の経験が長い方も多く、熱心に取り組んで下さっています。養成する側は、「ゆっくり待つ」「徐々に選択肢を絞る」「書き示して確認」などのコミュニケーション支援技法を適切に用いているか、受講生の様子をみながら助言を行います。

バスハイクでは、支援者（受講生）がいたことでお土産をじっくり選んで支払い、合間にアイスクリームを選んで召し上がる姿がみられました。失語症の方がまた出掛けよう、人に会おうと思って下さるような支援が目標です。

失語症の方の意思を受け取り、理解を導くことは簡単ではありません。それを暮らしや集団活動の中で、当事者の主体性や交流を考えながら行うことはさらに難しいことと実感しています。今は、受講生が失語症の方に寄り添って支援し、笑顔を交わす様子を励みに、沢山のご協力に感謝しながら、専門職としての自分が進化することを楽しみに取り組んでいます。事業に興味のある方は、ぜひご協力をお願いいたします。

登録はこちらから→URL：https://ssl.form-mailer.jp/fms/38c58c71350118

支援グッズのご紹介　筆記具とファイル

支援場面では、要点確認や失語症の方に書いて頂くなどで、紙と筆記用具が身近にあることが重要です。
使いやすさ、携帯性、価格、などから、以下3点をご紹介します。

紙：A5リングノート　　平らに広げられ、切って渡しやすい
100均にもあります（表紙が色々あり、安価です）

筆記具：ぺんてる水性サインペン　線の太さ、買いやすさ
S520-AD／：黒　定価100円（税込108円）

※パイロットの持ち歩きフォルダSのペンホルダーにぴったりです。

フォルダ（バインダー）：パイロット．持ち歩きフォルダーS　A5　ノンカラー
PL-F03-40-NC　　400円+消費税　（大きな文具店、ネット注文など）

色のないノンカラーがおすすめです。
同行支援の行程表などプリントを背側にはさむと見やすい。
A5ノートも間にはさんでゴムバンドで止められます。

ほかにもおススメのグッズがありましたら、お知らせください。
情報をお待ちしています

外出同行支援実習（3ヶ所）

10月に3つのバスハイクで外出同行支援実習が行われました。
受講(実習)生の皆さんは、支援準備シートに沿って、準備を整えて参加して下さっていました。
遠方への往復、雨もありましたが、全員、全行程無事に往復されました。

失語症の方からは「歩くのは遅いし、参加を迷ったけれど、支援者がいて、参加してよかった」などの声を伺いました。北九州市立障害福祉センターからは「ご本人のペースで、しっかり楽しんでおられるご様子がわかりました。また実習の場としてお願いしたい」と嬉しい言葉を頂いています。

もちろん、良いことばかりではなく、終了後の振り返りでは、反省点やどうしたらよかったのか？などの疑問も伺いました（P5参照）。気づいたことを、次に生かして頂ければと思います。

実習で力をつけるためには、様々な支援場面を経験して頂いたり、個別のやりとりが多く出来る時間を設ける必要があります。事前の準備や心構え、知識や学びも大切にしたいと思います。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

★3月31日（日）「虹の会：お花見」（福岡リハビリテーション病院／福岡市西区野方）
病院敷地内でのお花見を予定しています。（10時～打ち合わせ、10時30分～14時）
参加予定の方には詳細を2月下旬にご連絡します。よろしくお願いします。

北九州市立障害福祉センター

大分県豊後高田市　昭和の町

2018年10月5日（金）

車内での会話、観光、食事、道の駅での買い物などの支援を行いました。自己紹介から始まった緊張の一日、盛り沢山の行程で、場面ごとに「必要な支援」を考えて接していました。
雨対策もしっかり、動きやすい服装、ショルダーバッグやリュックで参加していました。

虹の会（福岡リハビリテーション病院）

明太子工場ハクハク見学　福岡市東区

2018年10月7日（日）

明太子のふくやさんの工場見学＆明太子づくり体験に行ってきました。
実習生の方にもサポートに入って頂きながら、作る工程を見学し、自分好みの明太子を作ってきました。会話も弾み、楽しい時間を過ごしました！

失語症サロン

熊本県阿蘇へのバスハイク

2018年10月21日（日）

阿蘇　草千里へ行きました。
散策や食事、ドライブイン・サービスエリアでの買い物等で会話や同行の支援を行いました。

外出同行支援後の振り返り・集団フィードバック概要報告　(10/14　北九州)

こんなことがありました！　　こう対応してみました／対応してみたら？

場面	反省点・困った点	適切な対応例　（実際に行ったこと、助言）　★新たな対応へ
バス乗降	先に降りたり乗ったりと、 一定しなかった	原則として支援者は下側＝支える位置に立ちますが、 その方のやり方が決まっている場合は合わせます。 前後にいると安心な場合は、協力者と前後に立ちます。
移動	歩行が早い方に置いていかれた	安全のためにも「一緒に歩きましょう」と伝えてみる 双方で協力してペースを合わせるように伝える
車中	普段の車中での過ごし方や、 どう過ごしたいかが分からず・・・・	ゲームや自己紹介は、理解や表出力を知る機会です 会話しながら親しくなり、様子を伺います。 また行程表を見ながら、買い物予定などを確認します
トイレ①	異性担当で戸惑った（同行できない）	事前にトイレ介助の必要性を確認しておきます 入口で協力してくれる人をさがします
トイレ②	荷物への注意が不十分になりがち （今回は忘れ物はなかった）	ドア裏に掛けたり、洗面所に仮置きした荷物（お土産）、 傘、杖を忘れていないか確認します
買い物	レジでのやりとりが慌ただしかった	一旦支払いを終えて、騒がしくない場所に誘導し、 計算やお金の確認を落ち着いて行いました
意思確認	本人の意向を尊重したいと思うあまり 待ち過ぎたかもしれない。	買いたい物が見つからない場面など、「これはどうですか？」と、 具体的に誘導してみる
★個人情報	連絡先を尋ねられて困った	★支援開始時、実習責任者から 「実習後連絡したいことがある場合は責任者にご連絡下さい」 と支援者、失語症者（ご家族）双方に伝えます
★役割の説明	「意思疎通支援者の役割／立場」が 相手に理解されていなかった （学生さんの実習ですか？と尋ねられた）	★意思疎通支援者養成事業、実習を伝えるために 実習協力依頼のチラシ（p7）と名札を作成しています

外出同行支援　関連書籍のご紹介

外出同行支援は、失語症支援において本来重要な領域ですが、
障害者総合支援法（2013年）施行に牽引された新しい領域でもあります。
「外出同行支援」はガイドヘルプという長い歴史があり、良い本が出版されていますのでご紹介します。

はじめて学ぶガイドヘルプ[第2版]
－当事者とともに伝える支援の方法－
野村 敬子 (編集)
(株)　みらい

◆目次
はじめに―ただ漠然と「支援してあげよう」と考えている自分がいませんか？―
第1部　ガイドヘルプに必要な基礎知識
第2部　視覚障害のある人のガイドヘルプ
第3部　全身性障害のある人のガイドヘルプ
第4部　知的障害のある人のガイドヘルプ
第5部　緊急時の準備と心構え
資　料　障害者に関する割引・減免制度および福祉措置一覧

◆概要
障害のある人と支援者が共同で執筆。
視覚障害・全身性障害・知的障害のある人の移動支援を1冊にまとめ、総合的なガイドヘルプのテキストとして編集。豊富な写真とイラストを交えてわかりやすく解説した。
ガイドヘルパー、ガイドボランティアの養成に役立ち、また、現任ヘルパーにも気づきを与える内容となっている。
第2版では、法改正に基づいて同行援護などを盛り込んだ。

B5判／268頁
2013/06/15発行
2,600円（税別）
ISBN　9784860152956

p30　ガイドヘルパーは・・・・「社会への橋渡し役、社会との接点の役割」
「外出先で障害のある人とふれあう社会の人々の障害に対する理解を深め、広げていく」

コミュニケーション支援実習（4ヶ所）ご紹介

あすの会（ウエルとばた）

毎月第2日曜

2018年11月11日（日）

打ち合わせ後、昼食をとりながらの会話、午後の交流会に加わりました。
この日のゲームはニュース「3択クイズ」、テーマトークは「おすすめテレビ番組」。お好きな番組はジャンルもさまざまで、参加者がお互いを知りながら、今の社会も知ることができる楽しい時間でした。なかなか言えない方にはジャンルや放送曜日、時間から絞っていきました。
全体報告の時には、伺った内容を簡潔にまとめて、板書の方に伝える工夫が必要でした。

筍の会（小倉リハビリテーション病院）

奇数月の第2土曜午後

2018年11月17日（土）

ノートとペンを準備し、会話の要点を書き留めながら、話題の共有や次回内容の相談など会話技術を活かした支援を実践されていました。
運動会では、当事者の方と一緒になって応援！楽しみながら支援されていました。

北九州市立障害福祉センター

毎週木曜午前

2018年10月4日（木）

集団言語リハビリ交流教室に参加しました。
前半は「今週の新聞から」というテーマでその週に起こった出来事・ニュースについて話し合いました。ノーベル賞や台風等の話題について参加者が様々な意見を出し話し合います。支援者は、ノートに要点を書いて示し、話題を共有するための支援をしました。
後半は「身近な話題」というテーマで参加者ひとりひとりが身近に起こった出来事を発表。散歩中に見つけたコスモス、栗や銀杏などの味覚・・・季節を感じるお話を伺うことが出来ました。

失語症サロン（ふくふくプラザ）

毎月第3日曜午前

2018年10月7日（日）

最近の出来事や気になるニュースを毎回、お話ししています。サロン開始前に当日の流れと役割分担を確認し、チェックシートより今日の目標をひとつピックアップして臨むようにしています。サロン終了後の反省会で目標について振り返り、良かった点や改善方法などを共有しています。しっかり待つことや文字や地図、カレンダーなどを用いて会話内容を確認することが定着してきています。

またここに来たい
またここで話したい
また皆さんに会いたい
と思って頂けるような支援を

養成実習の説明チラシが出来ました　このような支援場面を想定しています

実習にご協力をお願いします

“失語症者向け意思疎通支援者の養成”が始まりました

実習の目的

失語症のある人とのコミュニケーションにおいて…

○失語症のある人の思いを理解する

○必要な会話技術を身につけ、１対１の会話ができる

○日常生活における外出場面での意思疎通を支援できる

失語者向け意思疎通支援者による外出同行支援の例

外出の支援	交通機関の利用支援	会・会議での理解と意思表示支援
外出に同行し他者とのコミュニケーションを支援します	利用手続き、電車・バス路線図、表示板の理解などを支援します	会議の内容などを分かりやすく示し、意見がある時には伝えやすいように支援します
同病者とのコミュニケーション支援	**公共施設の利用・手続き支援**	**買物・娯楽施設などの利用支援**
失語症友の会などに同行しコミュニケーションを支援します	銀行・役所・郵便局などに同行し利用・手続きなどを支援します	店頭でのやりとり、商品説明の理解、施設利用法の理解などを支援します

＊失語症者向け意思疎通支援者の養成、派遣に向けての準備を進めています

問合せ先：一般社団法人福岡県言語聴覚士会　sasaki-tetsu@sawara-hp.jp

2018年12月版

失語症大会インおおいたのご案内　※申込締切2/15

今日も元気か笑顔はあるか

～失語症のある人もない人も心豊かに暮らせる街をつくろう～

失語症全国大会インおおいた

第33回 日本失語症協議会　第8回失語症デイ振興会

■ **10：00～　シンポジウムⅠ「失語症者向け意思疎通支援者養成事業の各地の現状と今後」**

行政説明：厚生労働省
当事者の立場から：工藤 浩二氏（失語症当事者/大分県言語障がい友の会「なし会」副会長）
家族の立場から：園田 尚美氏（当事者家族/NPO法人日本失語症協議会 副理事長）
先進県の立場から：田中 義之氏（言語聴覚士/兵庫県言語聴覚士会 会長）
失語症会話パートナー養成の立場から：宇野 園子氏
（言語聴覚士/NPO法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音 代表）

■ **11：30～　大分県言語障がい友の会「なし会」、デイサービス言の葉の仲間たちによる演奏・合唱**

■ **13：00～　シンポジウムⅡ「失語症者の集いの歴史と未来に向けて」**

当事者及び家族の立場から：田中 加代子氏（当事者家族/トークゆうゆう 代表）
失語症デイ振興会の立場から：松本 多香子氏（言語聴覚士/失語症デイサービスはばたき 管理者）
若い失語症当事者の立場から：黒澤 武史 氏（失語症当事者/若い失語症者のつどい初代会長）
相馬 肖美（言語聴覚士/NPO法人ゆずりはコミュニケーションズ）

■ **13：50～　失語症サミットin九州「九州失語症友の会大集合」**

九州各地の失語症友の会の活動紹介など

■ **15：20～　音楽に合わせて歌って体を動かしましょう！**

松村 英彦氏（失語症当事者/音楽療法士）

■ **15：30～　講演　「今日も元気か笑顔はあるか」**

大田 仁史氏（医師/茨城県立健康プラザ管理者/茨城県立医療大学付属病院名誉院長）

■ **18：30～　懇親会**

大会マスコット
「猫蔵」

日時	2019年3月16日（土）9：30～16：30（9：00～受付開始）
会場	別府国際コンベンションセンター　B-Con Plaza レセプションホール
主催	失語症全国大会インおおいた実行委員会
共催	NPO法人日本失語症協議会　NPO法人失語症デイ振興会 NPO法人ゆずりはコミュニケーションズ　大分県言語障がい友の会「なし会」 （公社）大分県言語聴覚士協会
問い合わせ	失語症全国大会インおおいた実行委員会　事務局：コミュニケーション・デイサービス言の葉 TEL/FAX：097-509-1320　Mail：kotonoha@habisapo.jp

参加費
1500円
（学生1000円）
別途登録料500円